

## 利尻島のキノコ (1)

佐藤清吉\*・山 晋\*\*・佐藤雅彦\*\*\*

078-1761 上川町旭町58-4 上川キノコの会会員\*

070-8134 旭川市末広4条7丁目 旭川キノコの会会員\*\*

097-0311 利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館\*\*\*

### Mushrooms of Rishiri Island in Hokkaido

Seikichi SATO\*, Susumu YAMA\*\* & Masahiko SATO\*\*\*

A member of Kamikawa Fungus Club, 58-4 Asahi-machi, Kamikawa, Hokkaido, 078-1761 Japan\*

A member of Asahikawa Kinoko no Kai, 4-7 Suehiro, Asahikawa, Hokkaido, 070-8134 Japan\*\*

Rishiri Town Museum, Senhoushi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan\*\*\*

#### はじめに

利尻島は国内最北端の離島として多くの生物学者の興味をそそる場所である。しかし、これまでにキノコ類の調査はそれほど行われておらず、筆者らが手に入れることができた文献は田北俊幸(1968)のみであった。島民は秋になればキノコ採りを楽しむようであるが、食用にならないキノコにはもちろん目がいかない。そこで、我々は1995年秋より調査を開始し、4月から10月まで毎月島内を探索した。以下のリストはそれらをまとめたものであり、49科129属210種を記録することが出来た。同定にはできるかぎり孢子の検鏡を行ったが、困難なものも多かった。まだまだこの島には未同定種や未記録種があるため、今後も調査を続ける予定である。少しでもこのリストが利尻島のキノコフロラの解明に役立てば幸いに思う。

本調査のきっかけをいただいた小沢晴司さん(環境庁)、いつもご指導いただいている五十嵐恒夫先生(北海道大学名誉教授)、また同定などの便宜を図ってくださった長沢栄史先生、前川二郎先生((財)日本きのこセンター・菌茸研究所)、服部力先生(農水省森林総合研究所)、細矢剛先生(三共(株)筑波研究所)、その他、標本や情報をいろいろと提供いただいた利尻島の多くの方々へ深く感謝の意を表したい。

なお、1997年の調査では、利尻島調査研究事業の助成制度を活用したことを申し添えておく。

#### 凡例

- ・科名の配列は今関・本郷(1987, 1989)に主に従い、種の配列は属名のアルファベット順とした。
- ・和名、学名は主に今関・本郷(1987, 1989)に従ったが、それ以外のものは末尾肩に文献番号をつけた。
- ・標本類は利尻町立博物館(RTMFU)と佐藤清吉(SSC)がそれぞれ保管する。

#### 利尻島産キノコ目録

##### ヒラタケ科

イタチナミハタケ

*Lentinellus ursinus* (Fr.) Kuhn.

RTMFU165; 夏~秋。オヒョウ、トドマツ朽木に単生~束生する。扇形。カサが細くなって木につく。かむと非常に辛い。

ナミハタケ

*Lentinus adhaerens* (Alb. & Schwein.: Fr.) Fr.

RTMFU17, 29, 41, 203; エゾマツ朽樹上。春。トウヒ属の腐朽の進んだ切株に雪の中で成長している。かむと苦い。ナラタケに似て

いる。

ウスヒラタケ

*Pleurotus pulmonarius* (Fr.) Quél.

RTMFU80, 113, 186; 春～秋。広葉樹朽木、  
枯木に単生～群生する。上等な食用菌。

### ヌメリガサ科

ミズゴケノハナ

*Hygrocybe coccineocrenata* (P.D.Orton) Moser

RTMFU225; 夏～秋。林内コケ上に単生す  
る。小形。

アカヤマタケ

*Hygrocybe conica* (Scop.:Fr.) Kummer

RTMFU326; 秋。広葉樹林内地上に散生す  
る。カサ、柄ともに赤褐色で三角形のキノコ。

ワカクサタケ

*Hygrocybe psittacina* (Schaeff.:Fr) Wünsche

RTMFU324; 夏～秋。林内、草地に散生す  
る小形の菌。草色のカサは老成すると黄色に  
なる。強い粘性がある。

キミズゴケノハナ

*Hygrocybe tunnda* (Fr.:Fr.) Karst.f.*macrospora*  
(Hongo)

RTMFU35; 夏。ふかふかなミズゴケの中に  
すくくと立っているキノコは美しい。

ウスアカヒダタケ

*Hygrophorus calophyllus* Karst.

RTMFU344; 秋。クロシメジと言われている  
が、ヒダは薄いピンク色。美しいキノコ。

ヤギタケ

*Hygrophorus camarophyllus* (Alb.&Schw.:Fr.)  
Dumee

RTMFU143; 秋。針葉樹林(トドマツ林に  
多い)の外縁にウスアカヒダタケと共に群生  
する。美味しい。

フキサクラシメジ

*Hygrophorus pudorinus* (Fr.) Fr.

RTMFU390; 島の人にはアカボンチョ、マツ  
キノコと言って食べているが、松脂の匂いが  
する。

サクラシメジモドキ

*Hygrophorus purpurascens* (Alb.&Schw.:Fr.)  
Fr.

RTMFU333; 秋。針葉樹林地上。桜色で中  
形のキノコ。食べられるが多くない。

### キシメジ科

ヤワナラタケ<sup>4</sup>

*Armillaria gallica* Marxmüller & Romagnesi<sup>4</sup>

RTMFU319; 夏～秋。切株・腐朽木上など  
の林内地上に単生～群生する。肉薄く、柄も  
細い。

ツバナラタケ<sup>4</sup>

*Armillaria ostoyae* (Romagnesi) Herink<sup>4</sup>

RTMFU313; 秋。奥手のポリポリと言われ  
ていたが、五十嵐先生が培養菌糸の交配試験  
によって同定されたナラタケ5種のうちの  
一種。食用。

ホテイナラタケ<sup>4</sup>

*Armillaria sinapina* Bérubé & Dessureault<sup>4</sup>

RTMFU304, 318; 夏～秋。切株・腐朽木上  
などの林内地上に単生～群生する。肉がしっ  
かりし根元が太くなる。食用。

アミヒダタケ

*Campanella junghuhnii* (Mont.) Sing.

RTMFU78, 243; クマイザサ、チシマザサ  
の枯れた悍に単生する。白く、こわれやすい。  
ヒダは網目状でカサの上から見える。

モミタケ

*Catathelasma ventricosum* (Peck) Sing.

RTMFU359, 387; 初秋～秋。トドマツ、エ  
ゾマツ林地上に単生～群生する。淡灰色で大  
形。美味しいキノコ。

ホテイシメジ

*Clitocybe clavipes* (Pers.:Fr.) Kummer

RTMFU139; 初秋にカラマツ林地上に散生  
する。美味しいキノコだが、肝臓が弱ると中  
毒する。

カヤタケ

*Clitocybe gibba* (Pers.:Fr.) Kummer

RTMFU259, 293; 林内地上の落葉上に単生  
～群生する。傘はロート形。帯赤褐色～肌色。  
ヒダは垂生し、密でクリーム色。柄は3～5  
×0.4～0.8cmで肌色、中実。食用。

カブベニチャ

*Collybia acervata* (Fr.) Kummer

RTMFU145; 比較的針葉樹の多い林地上に単生～群生する。明茶褐色。肉薄く、ヒダは密、白色、上生。柄は白く、上下同大、根元に白い綿毛をつけ中空。食用。

モリノカレバタケ

*Collybia dryophila* (Bull.:Fr.) Kummer

RTMFU264; 夏～秋。林内の落葉を分解してくれる小形菌。菌輪を作ることもある。歯切れのよいキノコ。

ニカワアナタケ

*Favolaschia nipponica* Kobay.

RTMFU87, 238; 夏。ササの悍に単生～群生する。ゼラチン質で淡灰色。孔壁の厚い筒孔がある。

エノキタケ

*Flammulina velutipes* (Curt.:Fr.) Sing.

RTMFU2, 15; 市販されているものとはイメージが違う。黄色～暗茶褐色。柄は白いが根元から次第に黒くなってくると繊維が強くなり、カサだけ取れることが多い。9月から来年春まで広葉樹に束生するが、特にヤナギの立木の腐食部分に出るので、河原のヤナギを廻ると雪の降るまで採れる。

シラウメタケモドキ

*Hemimycena delicatella* (Peck) Sing.

RTMFU257; 秋。針葉樹の落葉または落枝に小形で白色のかわいいキノコが出る。

ヒメムキタケ

*Hohenbuehelia reniformis* (G.Meyer:Fr.) Sing.

RTMFU271; 夏。広葉樹倒木に群生し、半円形～扇形。不食。

シロタモギタケ

*Hypsizigus ulmarius* (Bull.:Fr.) Redhead

RTMFU162; 秋。オヒョウ枯枝によく見られ、肉厚く美味しいキノコ。高いところに付くのでなかなか採れない。

ウラムラサキ

*Laccaria amethystea* (Bull.) Murr.

RTMFU394; キノコは小形で全体紫色。日光に当たると白っぽくなり、老成すると中央がへこむ。食用だがおいしくない。

キツネタケ

*Laccaria laccata* (Scop:Fr.) Berk. & Br.

RTMFU168; 7～9月に林内地上に散生する小型のキノコ。オレンジ褐色～帯赤褐色だが、乾くと白っぽくなる。柄はカサと同色。直生で中空。

ヒメキツネタケ

*Laccaria laccata* f. *minuta* Imai

RTMFU83; 夏。キツネタケに似るが小形のキノコ。

ムラサキシメジ

*Lepista nuda* (Bull.:Fr.) Cooke

RTMFU343; 晩秋。紫色のゴルフボールのように丸いツボミがいつの間にかカサを開いて菌輪をえがく。菌輪は毎年広がる美味しいキノコだ。

ムレオオイチョウタケ

*Leucopaxillus septentrionalis* Sing. & A.H.Smith

RTMFU229; 夏。広葉樹林地上にオオイチョウタケと同様カサの一部に引きつった溝ができる。カサ、ヒダ、柄ともに淡黄色で大形のキノコ。

ハタケシメジ

*Lyophyllum decastes* (Fr.:Fr.) Sing.

RTMFU167, 231, 276; 夏～秋。木・枯草などが土中に埋もれた道端、園地、宅地などに束生、群生する。中形の優秀な虫の食わない食用菌。

アシグロホウライタケ

*Marasmiellus nigripes* (Schw.) Sing.

RTMFU160, 345; 秋。ハリギリの落ちた葉柄に3～10mm位の真白いパラソル形でつく。根元が黒いので、この名がある。

ミヤマオチバタケ

*Marasmius cohaerens* (Alb. & Schw.:Fr.)

Cooke & Quel.

RTMFU128, 330; 秋。黒くスマートな柄にツヤのあるオレンジ褐色のカサは上品で見ても楽しい。

オオホウライタケ

*Marasmius maximus* Hongo

RTMFU79, 239; トドマツ林内地上。落ち葉を分解するキノコで、落ち葉に菌糸を伸ばし、落ち葉をよけるとフェルトを敷いたようになっている。カサの上からヒダがわかる。



ハタケシメジ

群生。

シバフタケ

*Marasmius oreades* (Bolt.:Fr.) Fr.

RTMFU40; 春～秋。草地や芝生に散生～群生する。小形。食用にするほど多く採れない。

コザラミノシメジ

*Melanoleuca melaleuca* (Pers.:Fr.) Murr.

RTMFU175; 春～秋。カサ、柄ともに灰褐色から暗褐色。中形。ヒダは白色で密。見分けづらい食用キノコ。

ベニカノアシタケ

*Mycena acicula* (Schaeff.:Fr.) Kummer.<sup>10</sup>

RTMFU372; 夏～秋。針葉樹林地上に散生する。見て楽しむキノコだ。

アクニオイタケ

*Mycena alcalina* (Fr.:Fr.) Kummer.

RTMFU212; 針葉樹林内に散生～群生するが、食用的価値はない。

クヌギタケ

*Mycena galericulata* (Scop.:Fr.) S. F. Gray

RTMFU227; 春～秋、広葉樹朽木上に束生～群生する。三角形に中央が突出する。食べられるというのが食欲のわからないキノコだ。

チシオタケ

*Mycena haematopoda* (Pers.:Fr.) Kummer

RTMFU311; 夏～秋。広葉樹切株や倒木、朽木上に出る小形菌。傷つくと赤い液がにじみ出る。

サクラタケ

*Mycena pura* (Pers.:Fr.) Kummer

RTMFU115; 夏～秋。針葉樹林地上の落葉



ベニテングダケ

間に多く見られる。ほんのりとした桜色。今は毒となっているが少量だと何でもない。

ヒロヒダタケ

*Oudemansiella platyphylla* (Pers.:Fr.) Moser in Gams

RTMFU101, 278; 夏～秋。広葉樹倒木に単生～束生する。カサの割にヒダの幅が広い。毒となっている本もあるが、私は食べている。多く食べない方がよい。

ツエタケ

*Oudemansiella radicata* (Relhan :Fr.) Sing.

RTMFU74, 295; 夏～秋。針葉樹、広葉樹の埋もれ木より単生する。少ししか採れないが美味。

マツカサキノコ

*Strobilurus esculentus* (Wulf.:Fr.) Sing.

RTMFU33, 38; 早春。トウヒ属（エゾマツ、アカエゾマツ等）の埋れた球果から雪の下で成長している美味しいキノコ。

キシメジ

*Tricholoma flavovirens* (Pers.:Fr.) Lund.

RTMFU342; 9月下旬に広葉樹林の地上に出る。全体が黄色丸山形で、ヒダは密で隔生。柄は根元が淡黄色で中空。

シモフリシメジ

*Tricholoma portentosum* (Fr.) Quél.

RTMFU374; 秋遅く針広混交林地上に出る美味しいキノコ。生の時はもろいがゆでると歯切れが良くなる。

ミネシメジ

*Tricholoma saponaceum* (Fr.) Kummer

RTMFU337, 349; 秋。針広混交林地上に散生する。食用だが、おすすめ品ではない。

アイシメジ

*Tricholoma sejunctum* (Sow.:Fr.) Quél.

RTMFU397; カサは淡黄色の地に中央から暗黒褐色が放射状に広がり、中央突出している。中形。食用だが少し苦味あり。広葉樹・針葉樹の混交林に散生する。

クマシメジ

*Tricholoma terreum* (Schaeff.:Fr.) Kummer

RTMFU335; 針葉樹林地上に単生～散生する。カサは中形で暗灰褐色。薄い髪の毛を濡らして櫛引いたような繊維状ささくれをつける。柄は白から灰色、中実。

クダアカゲシメジ

*Tricholoma vaccinum* (Pers.:Fr.) Kummer

RTMFU395; 秋に針葉樹林地上に散生～群生。赤褐色の地に繊維状のささくれを密につける。柄もカサと同色中空。苦い。

ネズミシメジ

*Tricholoma virgatum* (Fr.:Fr.) Kummer

RTMFU388; 秋。針葉樹林内地上に散生する。中央がとがって突出する。おいしくないキノコ。

キサマツモドキ

*Tricholomopsis decora* (Fr.) Sing.

RTMFU370; 針葉樹林朽木上に単生～群生する。黄色の地に褐色の小さなささくれをつける。ヒダ密。直生で黄褐色。柄も同色で中実。食用。

サマツモドキ

*Tricholomopsis rutilans* (Schaeff.:Fr.) Sing.

RTMFU119; 夏～秋。針葉樹の切株や倒木状に単生～束生する。黄色の地に赤褐色の鱗片を付け中央では密生するので赤黒く見える。柄も同じ。中毒の例もある。

ヒメカバイロタケ

*Xeromphalina campanella* (Batsch:Fr.) Maire

RTMFU32, 219; 針葉樹朽木上に群生する。不食。

## テングタケ科

タマゴタケ

*Amanita hemibapha* (Berk. & Br.) Sacc. subsp. *hemibapha*

RTMFU314; 最初タマゴタケを食べるのに大変度胸がいった。今では教えないほうがよかったと思うほどおいしいキノコ。

ベニテングタケ

*Amanita muscaria* (L.:Fr.) Pers.

RTMFU222, 322; 夏～秋。誰がみても毒キノコとわかるおとぎ話に出てくるキノコ。利尻島では少ないようだ。

ガンタケ

*Amanita rubescens* Pers.:Fr.

RTMFU118; 毒キノコのテングタケに似ているが、カサ、柄に赤味があるので見分けはつくがお勧めしない。

ツルタケ

*Amanita vaginata* (Bull.:Fr.) Vitt. var. *vaginata*

RTMFU305, 312, 354; ツバがないことから、ツルタケという。多く出るキノコでないので、お勧めしない。

## ウラベニガサ科

ウラベニガサ (シカタケ)

*Pluteus atricapillus* (Batsch) Fayod

RTMFU124; 灰色～灰褐色中形のキノコ。初夏から秋まで腐木上にでる。食用クサミノシカタケ

*Pluteus petasatus* (Fr.) Gill.

RTMFU247; シカタケと同じで白っぽい。ニワトコの臭いがする。食用。

## ハラタケ科

ウスキモリノカサ

*Agaricus abruptibulbus* Peck

RTMFU279; 夏～秋。広葉樹林や混交林内地上に生える白っぽいキノコ。中央淡黄色で、中～大形で単生～散生する。食。

シロオハラタケ

*Agaricus arvensis* Schaeff.:Fr.

RTMFU150, 283; 夏～秋。針、広混交林内地上に散生する。中～大形で成菌になるとヒ

タが黒くなる。食。

ハラタケ

*Agaricus campestris* L.:Fr.

RTMFU373; 夏～秋。草地、芝生上にゴルフボールのように出て翌日には開いてしまう。

食用。成菌になるとヒダが黒くなってくる。

ナカグロモリノカサ

*Agaricus praeclaresquamosus* Freeman

RTMFU272; 夏～秋。シロオオハラタケと同じく、カサの中央が黒くなる。有毒。

コキララタケ

*Coprinus radians* (Desm.:Fr.) Fr.

RTMFU49; 春～秋。広葉樹倒木や落枝などに群生する。

ワタカラカサタケ

*Lepiota clypeolaria* (Bull.:Fr.) Kummer

RTMFU122, 306; 夏～秋。針、広混交林内地上に散生する。カサ、柄には綿くずがついている。

マルミノヒガサタケ

*Leucocoprinus subglobisporus* Hongo

RTMFU82; 夏～秋。広葉樹林腐植土や朽木上に単生する。

コガネタケ

*Phaeolepiota aurea* (Matt.:Fr.) Maire

RTMFU176; 秋。名前のおり黄金色。カサを捨てて柄の皮をむいて食べると美味しい。群生する。



シロオオハラタケ

## ヒトヨタケ科

ヒトヨタケ

*Coprinus atramentarius* (Bull.:Fr.) Fr.

RTMFU131, 362; 春～秋。広葉樹朽木、埋もれ木に群生～束生する。上川町層雲峡の消防車庫では入口のコンクリートを破壊して束生したことがある。幼菌は食用だが、酒を飲む人は要注意。

イヌセンボンタケ

*Coprinus disseminatus* (Pers.:Fr.) S.F.Gray

RTMFU213; 夏～秋。枯木の根株等に群生しているのを見ると食べるより美しさにみとれる。

ヒメヒトヨタケ

*Coprinus friesii* Quél.

RTMFU356; 春～秋。朽木、枯草の湿った俵などに散生する。カサ、柄共に白毛に覆われる。

ネナガノヒトヨタケ

*Coprinus radiatus* (Bolt.:Fr.) Pers.

RTMFU51; 春～秋。稲ワラ、畳、馬ふんなどに単生～群生する。幼菌は食用だが、カサが開かないうちがよい。

イタチタケ

*Psathyrella candoliana* (Fr.:Fr.) Maire

RTMFU58, 265; 初夏～秋。広葉樹朽木上やその周辺に群生する。食用となっているが食欲がわかない。

ムササビタケ

*Psathyrella piluliformis* (Bull.:Fr.) P.D.Orton



ハナガサタケ

RTMFU336; 夏~秋。茶褐色丸山形。広葉樹朽木上に群生する。カサ周辺部が黒く縁取られる。食用。

### オキナタケ科

ツバナシフミツキタケ

*Agrocybe farinacea* Hongo

RTMFU70; カサ径4.4×4.5cm。淡灰茶褐色。乾くとひび割れる。柄4.5×0.4cm。ヒダは灰色から黒褐色になる。直生でツバはなく、中実。

### モエギタケ科

アカツムタケ

*Pholiota astragalina* (Fr.) Sing.

RTMFU286; 夏~秋。腐朽の進んだ針葉樹に単生~束生する。小形。不食。

ヌメリスギタケモドキ

*Pholiota aurivella* (Batsch:Fr.) Kummer

RTMFU163; 春~秋。主にヤナギの朽木上に単生~束生する。一般的にヤナギタケと言って食べている。

ハナガサタケ

*Pholiota flammans* (Fr.) Kummer

RTMFU287; 夏~秋。トドマツ、エゾマツ等の朽木上に束生する。鮮黄色のキノコ食用。

キサケツバタケ

*Stropharia rugosoannulata* f. *lutea* Hono

RTMFU54; 夏~秋。カサは黄褐色でツバが比較的厚く3~4にさげている。食。

### フウセンタケ科

シロトマヤタケ

*Inocybe geophylla* (Sow.:Fr.) Kummer

RTMFU170, 230; 夏~秋。針葉樹林内地上に散生する。白い小形のキノコで、中央が突出している。毒。

オオキヌハダトマヤタケ

*Inocybe fastigiata* (Schaeff.) Quél.

RTMFU255, 310, 263; 夏~秋。混交樹林内地上に単生する。茶褐色で中央突出している。毒。

ウスムラサキアセタケ

*Inocybe geophylla* var. *lilacina* (Fr.) Karst.

RTMFU317; シロトマヤタケと似ているが、色が薄紫色である。毒。

### イッポンシメジ科

タマウラベニタケ

*Rhodophyllus abortivus* (Berk. & Curt.) Sing.

RTMFU294; ヒダは肌色でキノコの周りに白い玉があるのですぐ分かる。白い玉はナラタケの菌糸につかれてキノコになれないと言われている。食用。

ウラベニホテイシメジ

*Rhodophyllus crassipes* (Imaz. & Toki) Imaz. & Hongo

RTMFU282; クサウラベニタケと似ているので、食べない方がいい。

キイボカサタケ

*Rhodophyllus murraini* (Berk. & Curt.) Sing.

RTMFU100; カサが黄色で、三角形。真ん中に小さな突起があり、白色・赤色もあるが、どれも食べられない。

クサウラベニタケ

*Rhodophyllus rhodopolius* (Fr.) Quél.

RTMFU172; 中毒例の多いキノコ。カサは灰色、ヒダは肌色。柄は白く中空。秋に広葉樹林内、地上に散生~群生する。

### ヒダハタケ科

ムクゲヒダハタケ<sup>7</sup>

*Paxillus* sp.<sup>7</sup>

RTMFU92; 夏~秋。ヒダハタケに似るが、カサの周辺が毛に覆われる。

### オウギタケ科

キオウギタケ

*Gomphidius maculatus* (Scop.) Fr.

RTMFU147; カラマツ林内地上に単生する。灰白色~淡褐色。成菌になるとカサに黒い染みができる。柄は白いが根元が黄色い。食用。

## オニイグチ科

オニイグチ

*Strobilomyces strobilaceus* (Scop.:Fr.) Berk.

RTMFU261; カサは中形で4~10cm。半球状から開いても平らにならない。暗褐色から黒褐色で大きなさくれをつけている。黒いラクヨウといった感じ。ミズナラや松の交じた林内地上に単生。食用。

## イグチ科

アシベニイグチ?

*Boletus calopus* Pers.:Fr.<sup>7</sup>

RTMFU328; カサ・管孔は帯黄茶褐色で柄は赤い。味は苦いので食べられない。針葉樹、広葉樹林内地上。

ヤマドリタケモドキ

*Boletus reticulatus* Schaeff.

RTMFU164; ヤマドリタケと同様においしい。アメリカでは日本人のマツタケみたいに好まれていると言う。食用。

コショウイグチ

*Chalciporus piperatus* (Bull.:Fr.)

RTMFU90, 140; トドマツ林内地上にでるが、多くはない。かじってみると非常にからく、根元が黄色であることが特徴。一度かじると食べる気にはならない。乾燥粉末にしてコショウ代りにならないだろうか。

ヤマイグチ

*Leccinum scabrum* (Bull.:Fr.) S.F.Gray

RTMFU91; 夏から秋にかけてダケカンバ類の林内地上に単生するが多くはない。柄はしっかりしているので茹でて冷やして刺身にするとうるうるな高級料理になる。

チチアワタケ

*Suillus granulatus* (L.:Fr.) O. Kuntze

RTMFU142; ハナイグチ(ラクヨウキノコ)より5~10日遅れて出てくる。二葉の松林内の地上に群生することがある。食用。

ハナイグチ

*Suillus grevillei* (Klotz.) Sing.

RTMFU144; ラクヨウとも呼ばれる。カラマツ(落葉松)林間地上にでるが、木が太くなると出が悪くなる。最近では採る人が多く

なったので、めったに採れないがおいしいキノコ。

ヌメリイグチ?

*Suillus luteus* (L.:Fr.) S. F. Gray<sup>7</sup>

RTMFU382; ストローブマツ等の樹下に単生~群生する。中形。乾くとぬめらないが、湿時はぬめる。食。

クロニガイグチ

*Tylopilus nigropurpureus* (Corner) Hongo

RTMFU329; 名前の通り黒くてにがいで食用にはならない。

## ベニタケ科

アカハツ

*Lactarius akahatsu* Tanaka

RTMFU339, 177; 夏~秋。針葉樹林内地上に散生~群生する。中形で淡橙、赤褐色のカサに青緑色のしみがある。食用。

ヒロハシデチチタケ

*Lactarius circellatus* Fr. f. *distantifolius* Hongo

RTMFU341; 広葉樹林内落葉上に単生~散生する。くすんだ色の環紋がある。

アシボソチチタケ

*Lactarius gracilis* Hongo

RTMFU396; 秋。広葉樹林内落葉上に単生する。カサの周辺部に細毛のフリルがある。

アカモミタケ

*Lactarius laeticolorus* (Imai) Imazeki

RTMFU116, 169, 292; 夏~秋。針葉樹林内地上に散生~群生する。中形でヒダにふれるとヒダと同色の乳液がでる。ダンがでて美味しい。

クロチチタケ

*Lactarius lignyotus* Fr.

RTMFU391; 夏~秋。針葉樹林内に散生する。名前のごとく黒くヒダがクリーム色で乳液がでる。

ツチカブリ

*Lactarius piperatus* (Scop.:Fr.) S.F.Gray

RTMFU321; 夏~秋。混交林地上に単生~散生する。カサはロート状で白くヒダは密である。この乳液も辛い。



シロカラハツタケ

*Lactarius torminosus* (Schaeff.:Fr.) S.F.Gray  
ssp. *pubescens* (Fr.) Konr. & Maubl.RTMFU392; 夏~秋。カンバタケ属の林内  
地上に散生する。辛味が強くて不食。

チチタケ

*Lactarius volemus* (Fr.) Fr.RTMFU123, 375; 夏~秋。広葉樹林内落葉  
上に単生する。赤褐色でロート状になる。傷  
つけると白い乳液がでる。食用。

クサイロハツ

*Russula aeruginea* Lindbl. apud Fr.RTMFU94, 270, 327; 夏~秋。ダケカンバ  
林でよく散見する。名前のおり緑色をして  
いる。食用。

ニシキタケ

*Russula aurata* (With.) Fr.RTMFU109; 夏~秋。マツ林に単生する。  
鮮黄色の地に赤い色をかけた様に赤い。食。

カワリハツ

*Russula cyanoxantha* (Schaeff.) Fr.RTMFU76; 夏~秋。中形で混交林地上に散  
生する。色の変化が大きく同定は難しい。食。

クロハツモドキ

*Russula densifolia* (Secr.) Gill.RTMFU93, 251, 347; 夏~秋。毒キノコ。  
ニセクロハツに似ているので食べない方がよ  
い。傷つくと赤変後、黒変はしない。ニセク  
ロハツは猛毒なので間違うといけないので食  
べないこと。

ドクベニタケ

*Russula emetica* (Schaeff.:Fr.) S.F.GrayRTMFU95; 夏~秋。混交林地上に散生する。  
ベニタケ属は形がよく似ているので同定が難  
しい。

ニオイコベニタケ

*Russula mariae* PeckRTMFU258; 夏~秋。マツ林より広葉樹林  
内地上に散生する。カサは桃色~赤褐色。柄  
も少し赤くなる。

オキナクサハツ

*Russula senecis* Imai

RTMFU351; 夏~秋。広葉樹林内落葉上に

単生する。カサの周辺の模様が古いペンキが  
はげたようになる。毒。ニシキベニハツ<sup>5</sup>*Russula veterosa*<sup>5</sup>RTMFU252; 夏~秋。広葉樹林内地上に単  
生する。ニシキタケより黄色味がうすい。

## アンズタケ科

アンズタケ

*Cantharellus cibarius* Fr.RTMFU174; このキノコはラッパ形でひだ  
はしわ状である。美味しいキノコと言われて  
いるが、多く採れないので筆者らはまだ食べ  
たことがない。標本にするのがやっとなので、  
一度食べてみたいと思う。

クロラッパタケ

*Craterellus cornucopioides* (L.:Fr.) Pers.RTMFU166; 名前のおり黒いラッパ状~  
じょうご形。石づきまで筒になっている。フ  
ランス料理に使われ、ミズナラ樹下によく見  
られる。食用。

## カレエダタケ科

ハイイロカレエダタケ

*Clavulina cristata* (Fr.) Schroet.RTMFU389; 高さ9.5cm、幅8.5cm、太  
さ0.5cm。4~6回枝分かれする先端は鹿角  
状。灰褐色。トドマツ林内地上、単生。

## ラッパタケ科

ウスタケ

*Gomphus floccosus* (Schw.) Sing.RTMFU302; 夏~秋。トドマツ林内地上に  
単生又は菌輪を描くなどして群生する。

## ウロコタケ科

ウロコオクバタケ

*Basidioradulum radula* (Fr.) NoblesRTMFU9; トドマツの枯れ枝に白くペンキ  
を塗ったように広がる。材の白腐れをおこす。  
チャウロコタケ*Stereum ostrea* (Bl. et Nees) Fr.

RTMFU242; 茶褐色~オレンジ褐色でうす

い団扇形。柄を中心に環紋がある。重生するが横に並ぶことが多い。不食。

### ハナビラタケ科

ハナビラタケ

*Sparassis crispa* Wulf.:Fr.

RTMFU146, 151, 331; 夏。針葉樹の根元に生える直径30cmぐらいの球状キノコ。美味しい。主にカラマツの切株に白いカリフラワーのようになっている。

### カノシタ科

カノシタ

*Hydnum repandum* L.:Fr.

RTMFU158; 肌色のもろいキノコだが下面には針がぶら下がる垂生。ゆでるともろさはなく美味しい。

### イボタケ科

チャハリタケ

*Hydnellum conrescens* (Pers. ex Schw.)

Banker

RTMFU340; ヒダのかわりに針がある不正円形でややロート状。針葉樹林内地上に群生する。

コウタケ

*Sarcodon aspratus* (Berk.) S. Ito

RTMFU300; 漏斗状アサガオ形上面には大きなさくれをつけ、強い香りがある。少し苦味があるが、そこが美味しく炊き込みご飯にするとという人もいる。松林。

シシタケ

*Sarcodon imbricatus* (L.:Fr.) Karst.

RTMFU275; コウタケに似るが、中央のへこみは浅い。

ケロウジ

*Sarcodon scabrosus* (Fr.) Karst.

RTMFU149; カサは不正円形で茶褐色、下面にヒダはなく、針がぶら下がり暗茶褐色。苦くて不食。

イボタケ

*Thelephora terrestris* Fr.

RTMFU102; このキノコの仲間に食用キノ

コはないが、漏斗を重ねた形であまり目立たない。

### ニンギョウタケモドキ科

ニンギョウタケ

*Albatrellus confluens* (Alb. et Schw. : Fr.)

Kotl. et Pouz.

RTMFU159, 360; 秋。針葉樹林地上にキノコらしくない不整形で、ヒダのないキノコ。縁は波打つことが多い。食用。

### 多孔菌科

アラゲカワラタケ

*Coriolus hirsutus* (Wulf.:Fr.) Quél.

RTMFU106, 233; 広葉樹枯木上に重生~群生する。カワラタケに似るが、淡灰色で灰色粗毛に覆われる。中形のキノコ。

カワラタケ

*Coriolus versicolor* (L.:Fr.) Quél.

RTMFU181; 夏~秋。一年生。広葉樹材上。まれに針葉樹に重生~群生する。管孔の白いうちは薬用となる。

ヒトクチタケ

*Cryptoporus voluatus* (Peck) Shear

RTMFU114; 春~夏。トドマツ倒木上に散生する。ハマグリ形。まれにしか見られない。辺材の白腐れをおこす。

チャミダレアミタケ

*Daedaleopsis confraosa* (Bolt.:Fr.) Schroet.

RTMFU137; 夏~秋。一年生。広葉樹枯木に重生~群生する。成長中の管孔に触れると淡赤褐色に変色する。

チャカイガラタケ

*Daedaleopsis tricolor* (Bull.:Fr.) Bond. et Sing.

RTMFU291; 広葉樹枯木に重生する。カイガラタケの仲間は管孔でなくヒダがある。

ツリガネタケ

*Fomes fomentarius* (L.:Fr.) Fr.

RTMFU10; 多年生(小形)。カバノキ属、ハンノキ属枯木に多数群生する。小径木では3~4年で倒れる。大形ツリガネタケは主にエゾイタヤに単生する。

ツガサルノコシカケ

*Fomitopsis pinicola* (Swartz :Fr.) Karst.

RTMFU6,7; 多年生。針、広葉樹どちらにも出るが、ケヤマハンノキ、カンバ属に多く見られる。材の褐色腐朽。

ニオイアマタケ

*Gloeophyllum odoratum* (Fr.) Imaz.

RTMFU72; 多年生。針葉樹腐朽が進んだ切株。倒木上に単生し、芳香がある。褐色腐朽。

キカイガラタケ

*Gloeophyllum saepiarium* (Wulf.:Fr.) Karst.

RTMFU190; 夏~秋。一~二年生。針葉樹材上。日の当たる所に単生~重生する。褐色腐朽。

アカゾメタケ<sup>7</sup>

*Hapalopilus rutilans* (Pers.:Fr.) Karst.<sup>7</sup>

RTMFU232; 広葉樹やトドマツ落枝上に半背着する。表面は淡赤褐色だが赤紫色に変色する。白色腐朽菌。

レンガタケ

*Heterobasidion insularis* (Murr.) Ryv.

RTMFU120; 夏~秋。一年生。針葉樹根株に単生~重生する。幼菌は白いが成菌になるとレンガ色になる。白色腐朽菌。

ウスバタケ

*Irpex lacteus* Fr.

RTMFU234, 355; 夏~秋。エゾイタヤ等枯木・倒木上に群生する。

カイガラタケ

*Lenzites betulina* (L.:Fr.) Fr.

RTMFU381; 春~秋。一年生。管孔でなくヒダのあるサルノコシカケ主に広葉樹に群生する。白色腐朽。

トンビマイタケ

*Meripilus giganteus* (Pers.:Fr.) Karst.

RTMFU315; 夏~秋。広葉樹根元にマイタケと同様に出るが、カサは大きく、トビ色をしている幼菌は食用。

オシロイタケ

*Oligoporus tephroleucus* (Fr.) Gilbn. et Ryv.

RTMFU297; 広葉樹主にヤナギ枯木上に白く単生する。芳香のあるキノコ。

シロサルノコシカケ

*Oxyporus populinus* (Schum.:Fr.) Donk

RTMFU62; 広葉樹(特にエゾイタヤ)樹幹上。白色~淡灰白色だがコケが生えて緑色になるものもある。白色腐朽。

カイメンタケ

*Phaeolus schweinitzii* (Fr.) Pat.

RTMFU89, 249; 夏~秋。一年生。針葉樹の根株に出る腐朽菌。褐色腐朽。

オツネンタケモドキ

*Polyporellus brumalis* (Fr.) Karst

RTMFU196; 春~秋。暗褐色で中央がへこむ。朽木上に単生する。なめし皮のようにかたい。

キアシグロタケ

*Polyporellus varius* (Pers.:Fr.) Karst.

RTMFU240, 288; 夏~秋。一年生。広葉樹落枝上。アシグロタケほど大きくならない。白色腐朽菌。

ハチノスタケ

*Polyporus alveolarius* (DC. ex Fr.) Bond. et Sing.

RTMFU26, 56, 57, 110, 269; 夏~秋。ヤマグワ、ハウノキ、トドマツ等に単生~群生する。材の白色腐朽をおこす。

シロハカワラタケ<sup>7</sup>

*Trichaptum elongatum* (Berk.) Imaz.<sup>7</sup>

RTMFU298; 夏~秋。一年生。広葉樹枯木、倒木上に多数重生する。柄はほとんどない。白色腐朽菌。

ウスバシハイタケ

*Trichaptum fuscoviolaceum* (Fr.) Ryvarden

RTMFU65; 夏~秋。トドマツ枯木・倒木上に群生する。

#### マンネンタケ科

ツガノマンネンタケ<sup>7</sup>

*Canoderma valesiacum* Boudier<sup>7</sup>

RTMFU53, 379; 夏一年生。針葉樹おもにカラマツの切株で多く見られる。雨にぬれると光沢が出る。薬用。

コフキサルノコシカケ

*Elfungia applanata* (Pers.) Karst.

RTMFU64,188,189; 多年生。春から秋まで

成長し、成長期に出た胞子は舞い上がりカサが茶色になる。

#### ミヤマトンビマイ科

ミヤマトンビマイ

*Bondarzewia montana* (Quél.) Sing.

RTMFU376,380; ; 夏一年生。針葉樹、切株、枯木根元に出る大形キノコ。

#### タバコウロコタケ科

カバアナタケ

*Fuscoporia obliqua* (Fr.) Aoshi

RTMFU60,399; 5月から子実体ができるが、ダケカンバなどの樹皮下に背着するので見つけづらい。菌核は黒く大きくなるので見つけやすい。

ミヤベオオウロコタケ

*Hymenochaete intricatae* Lloyd

RTMFU273,377,378; 子実体は半背着性。1/3位はカサを作り、2/3は背着し、重生する。暗茶褐色の薄いキノコ。利尻町森林公園では広葉樹のほかトドマツにも着生していた。

アカウロコタケ<sup>9</sup>

*Hymenochaete mougeotii* (Fr.) Cke.<sup>9</sup>

RTMFU141; トドマツの細い立木や切られた枝に、全背着性で赤く張り付く。

カワウソタケ

*Inonotus mikadoi* (Lloyd) Imazeki.

RTMFU55,320; 広葉樹、針葉樹立ち木に生える小形の一年生サルノコシカケ。表面に細毛を塗布する。

ニセカイメンタケ

*Omyia tomentosa* (Fr.) Karst.

RTMFU108; 針葉樹の根に寄生し、白色孔腐れをおこす。黄褐色でうちわ形が多い。

ネンドタケ

*Phellinus gilvus* (Schw.:Fr.) Pat.

RTMFU217; 広葉樹枯木に重生、群生する。黄土色したザラザラしたサルノコシカケ。

キコブタケ

*Phellinus igniarius* (L.:Fr.) Quél.

RTMFU5,63; 多年生。広葉樹に多く見られ、形態的にも変異が多い。幅50cm位になるも

のもある。

カバノニセホクチタケ<sup>9</sup>

*Phellinus laevigatus* (Fr.) Bourd. et Galz.<sup>9</sup>

RTMFU3; ダケカンバの枯木にカサを作らず、灰褐色の粘土を付けた感じのキノコができる。ルーベで見ると管孔がある。

チャアナタケモドキ<sup>9</sup>

*Phellinus punctatus* (Fr.) Pilat<sup>9</sup>

RTMFU59,81,202; 多年生。広葉樹の枯木、倒木上に広がり、材の白色腐朽を起こす。

サクラサルノコシカケ<sup>9</sup>

*Phellinus tuberculatus* (Baumg.) Niemelä

RTMFU13; 多年生。桜枯木上にカサを作らず、全背着性で広がる。管孔が垂直になるためか雨の当たらない面につく。

#### ツチグリ科

ツチグリ

*Astraeus hygrometricus* Morgan

RTMFU25; 球形の袋を包んでいる外皮は8-12片に裂けて開き、白い地を網目模様にして飾る。この胞子は血止めになる。

#### ニセショウロ科

ヒメカタショウロ

*Scleroderma areolatum* Ehrenb.

RTMFU254; 夏~秋。明るい広葉樹林内地上で落葉の少ないところに散生している。

#### ホコリタケ科

シバフダンゴダケ

*Bovista plumbea* Pers.

RTMFU153,171; 夏~秋。草地や芝生上に散生する。ホコリタケと間違っって食べ腹痛と下痢でひどい目に会ったことがある。

アラゲホコリタケモドキ

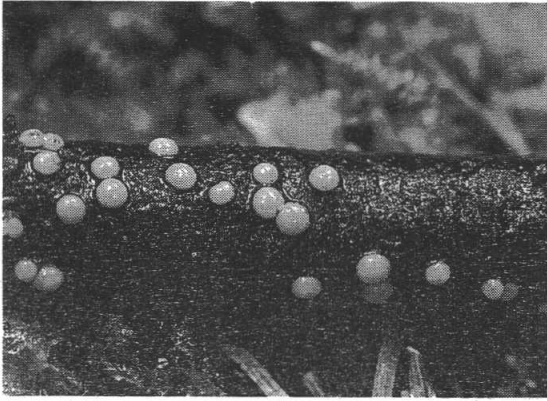
*Lycoperdon pedicellatum* Peck

RTMFU237; 夏~秋。アラゲホコリタケと似ているが毛が短い。胞子を見るとよく分かる。

ホコリタケ

*Lycoperdon perlatum* Pers.

RTMFU154,274; 夏~秋。林内道端などに



キイロヒメボタタケ



キチャワタケ

群生する。球形の頭部の下には長い柄がある。  
幼時は食用。

チビホコリタケ

*Lycoperdon pusillum* Batsch: Pers.

RTMFU357; 夏～秋。小形でホコリタケの  
様な柄はない。球形。

タヌキノチャブクロ

*Lycoperdon pyriforme* Schaeff. : Pers.

RTMFU130, 353; 夏～秋。朽木上や林内地  
上に群生する。幼菌は食用だがよく確かめて  
食べる方がよい。

#### スッポンタケ科

マクキヌガサタケ

*Dictyophora duplicata* Fisch.

RTMFU266, 284; 秋。幼菌は白い玉子状。  
悪臭があり、スカート(菌網)と柄は食用。  
キヌガサタケはロングスカート状で白いが、  
本種はミニスカート状である。

キツネノロウソク

*Mutinus caninus* (Pers.) Fr.

RTMFU125; 初夏～秋。林内地上の落葉上  
に夜明けと同時に散生するが、午前中で倒れ  
てしまう。淡赤色の柄に頭部は赤いが、暗茶  
褐色のグレバをつけ、悪臭がする。

#### キクラゲ科

アラゲキクラゲ

*Auricularia polytricha* (Mont.) Sacc.

RTMFU268; 子実体は平形からしゃもじ形。

茶褐色から帯紫暗茶褐色。外面には灰色の細  
毛あり。トドマツ枯れ木および広葉樹倒木上  
に多く単生～群生する。

#### ヒメキクラゲ科

ヒメキクラゲ

*Exidia glandulosa* Fr.

RTMFU1, 19; 秋～春。広葉樹朽木、落ち  
枝上に黒くプリン状に群生する。乾くと黒い  
紙を巻いたようになり、凍結しても春解ける  
と取って食べることができる。

ニカワハリタケ

*Pseudohydnum gelatinosum* (Scop.: Fr.) Karst.

RTMFU384; 夏～秋。針葉樹倒木、切株、  
落ち枝など腐朽の進んだ木にでる。ヒラタケ  
形で下面に針がある。灰色形と白色形がある。

#### アカキクラゲ科

ニカワホウキタケ

*Calocera viscosa* (Pers.: Fr.) Fr.

RTMFU385; オレンジ色のホウキタケでニ  
カワ質。針葉樹の落枝、切株などに出る。量  
的には多くとれないが、乾しておいて鍋物に  
入れるとおいしい。

ハナビラダクリオキン<sup>7</sup>

*Dacrymyces palmatus* (Schw.) Burt.<sup>7</sup>

RTMFU42; 春～秋。針葉樹切株にオレンジ  
色で脳みそ状になる。1～5 cmでゼラチン  
質。食毒不明。

## オストロバ科

キイロヒメボタンタケ

*Vibrissea leptospora* (Berk. et Br.) Phill.

RTMFU207; 子実体は黄色のビーズを並べたようだ。湧水の中に埋もれた木に出る。春。

## テングノメシガイ科

カベンタケモドキ

*Neolecta irregularis* (Pk.) Korf et Rogers

RTMFU309, 348; 夏～秋。鮮黄色で林内に散生する。カベンタケと外観は同じだが、子の胞子が長卵形、無色で油球を1-2個含む。表面に小さなイボがある。7.5~10×3.2~5 μ。子のうは95~120×5~7.5 μ。

ヘラタケ<sup>7</sup>*Spathularia flavida* Pers.:Fr.<sup>7</sup>

RTMFU117; カラマツ林地上でよく見られる。ヘラの形をしているのですぐ分かる。不食。

## キンカクキン科

キボリア アメンタケア<sup>7</sup>*Ciboria amentacea* (Balbis) Fuckel<sup>7</sup>

RTMFU8, 200; 春。雪の下でケヤマハンノキの尾状花が落ちたものに散生する柄の長いチャワソタケ。小形。食毒不明。

ヒナノチャワソタケ科<sup>6</sup>ラクネルルラ ウィルコンミイ<sup>7</sup>*Lachnellula Willkommii* (Hartig) Dennis<sup>7</sup>

RTMFU11; 春～秋。トドマツ、ハイマツの枝が切られて1~2年目に群生する鮮黄色の小形菌。

## ズキンタケ科

ムラサキゴムタケ

*Ascocoryne cylichnium* (Tul.) Korf

RTMFU364; 夏～秋。腐朽の進んだ倒木に淡紫色の皿形で小形のキノコが群生する。

モエギビョウタケ

*Bisporella sulfurina* (Quél.) Carp.

RTMFU369; 夏～秋。広葉樹倒木や落枝に群生する。鮮黄色で超小形で美しい。

ロクショウグサレキンモドキ<sup>7</sup>*Chlorociboria aeruginascens* (Nyl.) Kanouse ex Ram. et al.<sup>7</sup>

RTMFU180; 秋。青緑色のキノコが同色の朽木から偏心性となって群生する。

ミズベノニセズキンタケ

*Cudoniella clavus* (Alb. et Schw.:Fr.) Dennis

RTMFU66; 春～夏。湧水に浸る草類の悍に淡灰色の小形のキノコが散生する。

## クロチャワソタケ科

エナガクロチャワソタケ

*Plectania nannfeldtii* Korf

RTMFU205; 春、雪の下で埋もれたトドマツの落枝に散生～束生する小形の黒いキノコ。不食。

ニセクロチャワソタケ

*Pseudoplectania melaena* (Fr.) Sacc.

RTMFU206; 春。雪の下でトドマツの落枝より束生する小形のキノコ。椀の内側は灰色で柄がある。

クロチャワソタケ

*Pseudoplectania nigrella* (Pers.) Fuckel

RTMFU14, 44; 春。雪の下で針葉樹林地上落葉または小石の周りに群生する柄がないキノコ。

## ベニチャワソタケ科

マツノコベニサラタケ<sup>7</sup>*Pithya vulgaris* Fuckel<sup>7</sup>

RTMFU12, 198, 204; 春。雪の下でトドマツ落枝上に雪解け水をたっぷり含んで成長している。

ベニチャワソタケ

*Sarcoscypha coccinea* (S.F.Gray) Lamb.

RTMFU4, 18, 195; 春。雪解けと同時に真赤な色で大きくなっている。広葉樹朽木上に散生する。

## ノボリリュウタケ科

フクロシトネタケ<sup>6</sup>*Discina perlata* Fr.<sup>6</sup>

RTMFU23; 春～初夏。アカエゾマツ、トド

マツ腐朽木切株に単生～群生する。

ナガエノチャワソタケ<sup>7</sup>

*Helvella macropus* (Pers.:Fr.) Karst. var.  
*macropus*<sup>7</sup>

RTMFU262; 夏～秋。灰色の杯に細い柄がある感じだ。

### アミガサタケ科

トガリアミガサタケ

*Morchella conica* Pers.

RTMFU30, 43, 111; 春。アミガサタケは頭部が丸いが、このキノコは頭部がとがっている美味しいキノコだ。

アシボソアミガサタケ

*Morchella deliciosa* Fr.

RTMFU24, 31, 47, 50; アミガサタケ類は桜の花が咲くころから取れ、汁物、油炒めに入るとおいしい。見た目は気持ち悪いが、子供の頃から食べている人にとっては美味しく見える。同時期に出るシャグマアミガサタケは死ぬこともある毒キノコなので間違わないこと。

チャアミガサタケ<sup>7</sup>

*Morchella esculenta* (L.:Fr.) Pers. var.  
*umbrina* (Boud.) Imai<sup>7</sup>

RTMFU34; 頭部は丸く黒ずんでいる。ヤチダモ林内に見ることができる。食用。

### チャワソタケ科

カバイロチャワソタケ<sup>7</sup>

*Pachyella clypeata* (Sehw.) LeGAL<sup>7</sup>

RTMFU244; チャワソタケというが皿タケといった感じ。キノコ眼でないと見えないキノコだ。ハリギリ朽木上。

モリノチャワソタケ

*Peziza arvernensis* Boud.

RTMFU126; 夏～秋。倒木上や太い立木の根元に群生し、直径2-8cmになる。肉はもろい。

オオチャワソタケ

*Peziza vesiculosa* Bull.

RTMFU161, 209; 初夏～夏。腐蝕の進んだ材や捨てられた畳などに群生する。毒はない

が美味しくない。

エナガクロチャワソタケ

*Plectania nannfeldtii* Korf

RTMFU205; 春。雪の下で針葉樹の落ち枝に出ている真黒いチャワソタケ。

### ピロネマキン科

ヒイロチャワソタケ

*Aleuria aurantia* (Fr.) Fuckel

RTMFU182; 夏～秋。山の斜面を切りくずしたところに群生する。オレンジ色で柄のないキノコ。

キチャワソタケ<sup>7</sup>

*Caloscypha fulgens* (Pers.) Boud.<sup>7</sup>

RTMFU52, 187; 春～初夏。針葉樹林地上に単生する。鮮黄色で外側に緑色を帯びるチャワソタケ。

シロスズメノワソ<sup>7</sup>

*Humaria hemisphaerica* (Weggers:Fr.)  
Fuckel<sup>7</sup>

RTMFU97; 夏～秋。腐朽の進んだ倒木や腐植土上に単生～散生する。この碗でスズメが食事するのを見たいものだ。

アラゲコベニチャワソタケ

*Scutellinia scutellata* (L.) Lambotte

RTMFU61, 77, 361; 春～秋。朽木、埋もれ木などに出る。小さな皿形で赤いからすぐに目立つ。皿の外周には荒い毛がある。

タルゼッタ カティヌス

*Tarzetta catinus* (Holmsk.: Fr.) Korf et  
Rogers<sup>8</sup>

RTMFU235; 夏。針葉樹林地上に散生する。碗の底に孔があるのが特徴。

### バツカクキン科<sup>5</sup>

オオセミタケ<sup>7</sup>

*Cordyceps heteropoda* Kobayasi<sup>7</sup>

RTMFU281; カラマツ広葉樹、混交林内林中。コエソゼミの頭部より生じる。高さ0.9cm、太さ1.3cmの球形で帯灰暗茶褐色。白い柄に茶色の頭をもつ。上川よりも島の方が多くの冬虫夏草が見られる。見つけたのは島の人たちだった。

サナギタケ<sup>7</sup>*Cordyceps militaris* (vuill) Fr.<sup>7</sup>

RTMFU352; 9月。混交林内落葉中。高さ4.8cm。頭部1.3×0.6cm。赤褐色(オレンジ色より濃色)。柄2.6×0.4cmは頭部より淡色。

タンポエゾセミタケ<sup>11</sup>*Cordyceps toriharamontana* Kobayasi<sup>11</sup>

SSC; 9月広葉樹林内林道わき。地中のコエゾゼミの頭部より生じる。頭部は帯灰暗黒褐色。稀にしか見られない。

ハナサナギタケ<sup>7</sup>*Isaria japonica* Yasuda<sup>7</sup>

SSC; 9月。利尻町森林公園のトドマツ林内の朽木内で発見。

ヒボミケスキキノ科<sup>7</sup>

## タケリタケ

*Hypomyces* sp.<sup>7</sup>

RTMFU260; 秋。テングタケ属のキノコに別の菌が取りついてできると言われているので、食べてはいけない。

## クロサイワイタケ科

## ホソツクシタケ

*Xylaria magnolia* J. D. Rogers

RTMFU228; 夏~秋。地上に落ちたハウノキの果穂に群生する。白い粉をかぶったひも状のキノコ。

## 参考文献

- (1) 今関六也・本郷次雄、1987. 原色日本新菌類図鑑(I). 保育社.
- (2) 今関六也・本郷次雄、1989. 原色日本新菌類図鑑(II). 保育社.
- (3) 五十嵐恒夫、1988. 北海道のキノコ. 北海道新聞社.
- (4) 五十嵐恒夫、1993. 続 北海道のキノコ. 北海道新聞社.
- (5) 本郷次雄、1994. 山溪フィールドブックス 10 きのこと. 山と溪谷社.
- (6) 前田一步園財団、1997. 阿寒国立公園のキノコ. 前田一步園財団調査研究報告14.
- (7) 今関六也・大谷吉雄・本郷次雄、1988. 山溪カラー名鑑 日本のきのこ. 山と溪谷社.
- (8) 大谷吉雄、1989. 日本産盤菌綱菌類目録と文献. 横須賀市博研報 [自然]、37:61-81.
- (9) 菊原伸夫、1987. 日本産ヒダナンタケ類の分類. 199pp. 生地研.
- (10) Phillips, R., 1985. Mushrooms and Other Fungi of Great Britain and Europe. Irish Book Center
- (11) 清水大典、1994. 原色冬虫夏草図鑑. 盛文堂新光社.
- (12) 田北俊幸、1968. 利尻島の茸類. 中村武久(編)、利尻島動植物調査報告. 東京農業大学第一高等学校. 東京. 61-64p.